

T-PLAN/総合的な探究(学習)の時間  
令和元年度  
最終レポート

自分発見家になろう!!



将来に悩む理由



まずは自分を深く知ること  
自分の向きたい方向や軸が  
定まってくる!!

1年生は...

グローバルゼミ&ト・フ・フォ・クダンス (11月)  
(6~10月)



や、てみたいかも...を  
実行!!

2年生は...  
プロジェクト活動 (6~12月)



3年生へ...

# 総評と活動概要

## Overview

令和元年は、T-PLANとして正式に体系だったプログラムとして実施して二年目となる。今年は、骨組みに変更は加えず、細部を充実させることに意識を向けて設計・運営した。

### <第一学年 活動概要>

活動名	概要	実施時期
ガイダンス	T-PLAN の概要や受講方法の説明	5月
ブリコラージュゼミ*	毎回複数のラインナップの中から選択する体験講座	計4回（6月、7月、9月、10月）
トークフォークダンス	生徒と大人が一对一で行う対話ワークショップ	11月
リフレクション	毎回の体験の後や、一年間の最後に行う自己理解を深める時間	3月

### <第二学年 活動概要>

活動名	概要	実施時期
ガイダンス	T-PLAN（2年次）の概要や受講方法の説明	5月
探究プロジェクト	生徒が、自分の興味や関心に合わせて、設定もしくは選択して、半年間かけて取り組む探究プロジェクト	計6回（6月、7月、9月、10月、11月、12月）
リフレクション	毎回の体験の後や、一年間の最後に行う自己理解を深める時間	2月



# 注力した点

Our Priorities

## ① 体験を深い学びに変える ふりかえりの手法の開発

多様なステージにある生徒を抱える津和野高校では、本来複雑な課題解決学習を画一的・強制的に行うのではなく、極力、個別最適化したシンプルな体験の中で、地域の面白さや自分が主体性を持って取り組める領域に気づいてもらうことが第一歩。しかし、シンプルな体験ではあっても、学びに変えることは不可欠である。誘導的、強制的、表面的になりがちなふりかえりの手法を丹念に研究しつつ、生徒が主体的に取り組み、かつ深い自己理解を促すふりかえり授業の実践に注力した。



## ② 2年次における探究プロジェクトの設定

津和野高校では、ただ探究のサイクルを回すだけの「課題解決型学習」からは距離を置いてきたが、生徒による高校内での主体的なプロジェクトが増えてきたこと、2年次には一つのことじくりに取り組んでみたいという要望が生徒からあったこと、教員からSSH/SGH認定校における研究のような機会を一部の生徒に確保したいという意見を受け、2年次はブリコラージュゼミの代わりに探究プロジェクトを設定した。



# 実践を通じた変容

What changes has the program brought about?

## ① 進路指導との接続

- ・3年次(2年次にT-PLANを経験)の進路指導において、T-PLANでの取り組みをAO入試や推薦入試、面接などの場面で活用する生徒が大幅に増えた。
- ・2年次、3年次の進路指導における志望理由書作成の際に、T-PLANの経験と意識的に接続させる授業が実施された。

## ② ICTを利用した個別最適化に向けた取り組み

- ・2年次のプロジェクト設定において、担任教員の提案により、Google Formを用いた生徒とのコミュニケーションが図られ、より綿密な興味関心の把握につながった。

## ③ 取り組む生徒の姿勢

2学年においては、年度始めの「こんなことをしてみたい」という漠然とした思いを抱いているに過ぎなかった生徒が、スケールや精度に差はあれ、思いを現実にするという体験をすることができた。課題に対する当事者意識や理解、ふりかえりの深さも、数年前の生徒と比して格段に上がっているとの教員からの意見が多数あった。

## ④ 高校生の学びへの多様な大人の参画

昨年にも増して、多様な大人がT-PLANにご協力してくださった。トークフォークダンスの参加者やブリコラージュゼミの講師の他、今年は2学年の探究プロジェクトにも多くの地域の方が、指導者、伴走者として関わってくださった。また、学校全体で、多くの教員が、それぞれの特技を活かしてブリコラージュゼミの講師として登壇したほか、ふりかえり時の対話相手という形で生徒の深い学びに関与した。より多様な立場の人との接触は、生徒のコミュニケーション力向上に寄与するという観点から、今後は、以下の3点の実施を検討したい。

- 保護者の授業への関わり
- 授業に関わっている伴走者や講師同士の会議の場の設定
- 講師としての授業づくり、学びの場づくりに、生徒が参画できる機会の確保



# 今後の課題

Challenges for the next year

## ① 運営体制

コーディネーターの入れ代わりや主幹教諭の異動などがあり、これまで以上の運営体制の強化が求められる。会議体の明確化や運営側のPDCAサイクルの確認、教員全体への実施状況の情報共有など、仕組みづくりを検討したい。ある程度マニュアル化しなければいけない点と、形骸化しないための意識的余白を作る点とのバランスを考え、創造的かつ持続的な学びづくりを続けたい。また、関与する教員や大人が増える中、三年間の成長の軌跡を見通した、カリキュラムツリーの策定が急務である。

## ② Outcomeを意識したデザイン

生徒に対しては、T-PLANは主体性醸成のきっかけとしての緩やかな体験学習プログラムに止まっているが、ある程度の負荷が生徒のモチベーションややりがいにつながるとし、そうした場面も増やすべきとの教員の意見も聞かれた。今後は特に、成果物(Output)だけでなく、変容(Outcome)を意識したプログラムを作成していきたい。

## ③ 外的要因に関する対処

個別最適化したプログラムの継続を意識しつつも、生徒数の増加に伴う持続的な体制づくりも考えていきたい。また、新型コロナウイルスの影響が未だ見えない中、対面型や密閉空間での大人数のプログラムなどの是非を批判的に考慮し、ネガティブなインパクトを最小限に抑えていきたい。

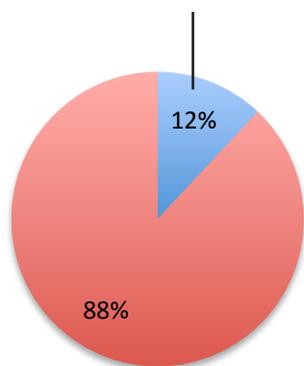


# 1年生のブリコラージュゼミの多様性

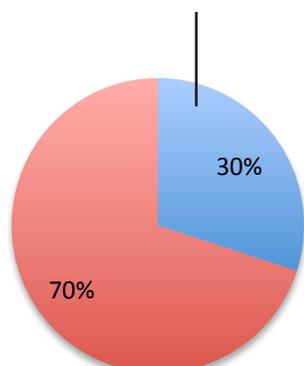
Diverse experience-based courses

## 過去二年間の多様な講座の傾向

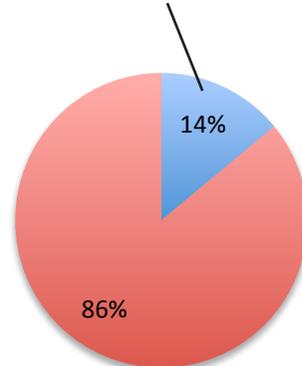
■ 町外の方のご協力の下  
開講できた講座の割合



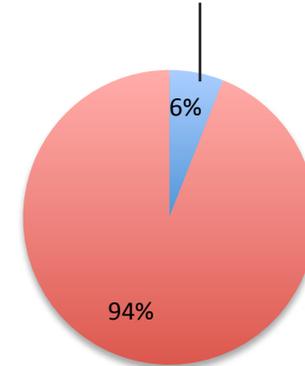
■ 学校関係者が講師を務めた講座の割合



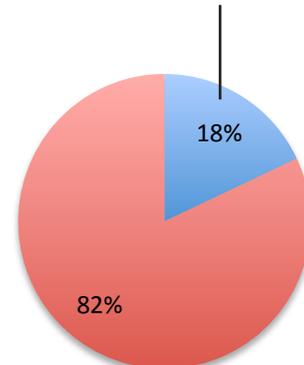
■ 対話を基盤とする  
講座の割合



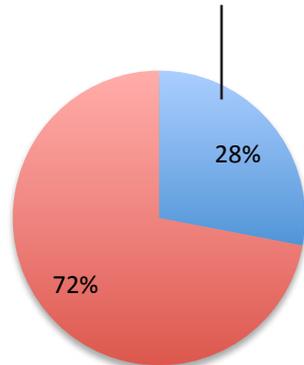
■ グローバルなテーマを  
扱う講座の割合



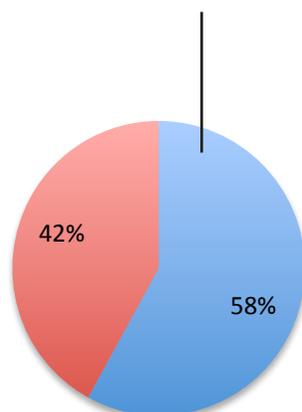
■ 科学、テクノロジーをテ  
ーマとする講座の割合



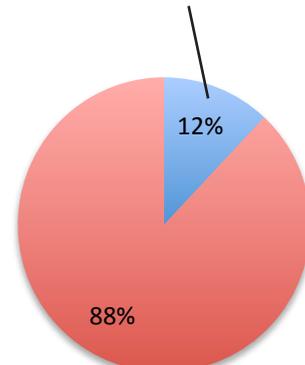
■ 津和野(郷土)を直接テ  
ーマとする講座の割合



■ 五感を使う講座の割合



■ キャリアをテーマとす  
る講座の割合



# ブリコラージュゼミ ラインナップ 体験① 2019年6月3日

## A. 津和野の食を知ろう

**講師:** 國方あや先生  
**場所:** 厨(くりや)ファミリア  
**内容:** 近隣の農家さんの野菜を収穫させていただき、一皿のごちそうに仕上げていきます。「食べること」を切り口にして、もてなしや健康についても学びます。



## B. グラフィックレコーディング入門

**講師:** 住田桃子先生  
**場所:** 学校内  
**内容:** 話し合いの様子をリアルタイムで絵で表していく「グラフィックレコーディング(グラレコ)」。全国でこのグラレコを教える講師から直接習える入門編です。



## C. 路上観察学入門

**講師:** 山岡浩二先生  
**場所:** 学校内  
**内容:** 津和野の郷土史家であり、森鷗外の民間研究家である講師をお招きし、津和野のまちを新たな視点で見つめる「路上観察」を、遊び心を大切にしながら体験します。



## D. ブレイクダンス入門

**講師:** 上田裕貴先生  
**場所:** 学校内  
**内容:** 全国でも最大級で、ハイレベルな関西学院のダンスサークルSuper☆Novaで活躍していた講師の下、安全に無理なく、ブレイクダンスの世界に触れていきます。



## E. ロックミュージック入門

**講師:** 林幸一先生  
**場所:** 津和野公民館  
**内容:** 林先生は、石見神楽の演者であると同時に、ロックミュージシャンでもあります。楽器や音響器具に触れさせていただき、奥の深いロック音楽の世界を体験します。



## F. 釣りの仕掛け作り

**講師:** 廣田理史先生  
**場所:** 学校内  
**内容:** 廣田先生は、生物の世界からアウトドアまで精通していらっしゃいます。今回は、釣りの仕掛けを自分で作り、実際に生き物が釣れるかを学校の池で試してみます。



## G. ディベート入門

**講師:** 山本竜也先生  
**場所:** 学校内  
**内容:** 賛成と反対に別れて意見を戦わせる知のスポーツ、ディベート。身近な問題から社会問題まで、様々なテーマの議論を、ディベートのルールを学びながら体験します。



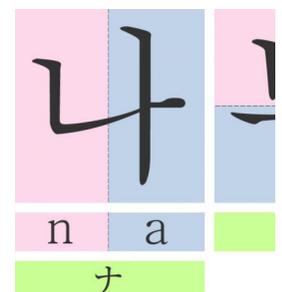
## H. グラスウィンドウペインティング

**講師:** 津和野町芸術士@  
**場所:** 津和野公民館  
**内容:** 公民館の大きな窓ガラスを一人が一つ受け持って、窓ガラス用の画材で絵を描きます。今回は、アメリカの留学生への歓迎の意味を込めた絵を仕上げしていきます。



## I. 韓国語入門

**講師:** 高須知穂先生  
**場所:** HAN-KOH  
**内容:** 先生は、大学時代に韓国語を勉強し、今では日常会話をこなすことができます。今回は、韓国語の初歩の初歩を、ゲームなどをしながら学んでいきます。



# ブリコラージュゼミ ラインナップ

7月4日(木): 9:55-12:40



Project Options

## A. 畑迫ツアー



### キーワード

- ・ ご協力: 畑迫公民館
- ・ サマーウォーズに出て来そうな国指定名勝堀庭園(建築、歴史に興味ある人)
- ・ 旧畑迫病院をリノベーションした糧(カフェ)で飲み物をいただく
- ・ 遠いので車が無いといけない場所
- ・ ツアー(見学)がメイン
- ・ 25億年前の石炭掘現場も見れるかも

## B. 青野山ハイキング



### キーワード

- ・ 引率: 教頭先生
- ・ 津和野の人が愛着を持つ火山、青野山に登ってみたい人
- ・ 2時間で頂上まで行って帰ってくる。三年間の高校生活でも、この山に登る機会はないのでおすすめ
- ・ 雨天の場合はプラネタリウム

## C. 和のファッション入門



### キーワード

- ・ ご協力: ささや呉服店
- ・ 和のファッションや文化、コーディネート、マナーに興味がある人
- ・ 浴衣の着付けをしてみたい人
- ・ 呉服屋さんの中に入りたい人(中には美しい坪庭がある)

## D. プログラミング入門



### キーワード

- ・ ご協力: バルトソフトウェア
- ・ プログラミングやITに興味がある人
- ・ 簡単なアプリやゲームを作りたい人
- ・ 講師の先生はプログラマーで、高校生時代に神経衰弱ゲームを自作した経験も

## E. ボールペンハーバリウム作り(10名まで)



### キーワード

- ・ ご協力: 津和野中央公民館、小川公民館
- ・ 人気のハーバリウム(ドライフラワーを特殊な保存液に漬け込んだもの)
- ・ ボールペンに入った状態で完成し、持って帰ることができる
- ・ 小物作り、かわいいものが好きな人

## G. DIY入門



### キーワード

- ・ ご協力: 高田菜津子(ハレルヤ)
- ・ 内装、もしくは外の遊具、木のベンチづくりなど
- ・ ものづくりに興味がある人、手を動かして何かしてみたい人
- ・ 修学旅行中の京都の高校生もいるかも
- ・ 場所は、学校から1分のアート拠点

## I. 地域の訪問看護に同行しよう(2名限定)



### キーワード

- ・ ご協力: 医療法人橘井堂 津和野共存病院
- ・ 看護、医療、福祉、介護に興味がある人
- ・ 実際に利用者の方のご自宅に訪問して現場の医療、福祉を見学できる
- ・ 訪問家庭の関係で2名限定(一人一人違う家庭に伺う)

## F. 地域イベント企画(社会教育)入門



### キーワード

- ・ ご協力: 益田社会教育事務所
- ・ イベントを企画の仕方、ミーティングの進め方を知りたい人
- ・ 小学校中学校の先生、社会教育や教育委員会の仕事に興味がある人
- ・ グローカルラボの人、個人プロジェクトをしたい人にもおすすめ

## H. 校長先生の特別授業



### キーワード

- ・ 普段学校や授業では話せない内容(倫理の発展版)
- ・ 読書が好きな人
- ・ 心理学、宗教学、哲学、学習理論などに興味がある人
- ・ 校長先生の部屋でカジュアルに対談する形(じっくり聞いていても良い)

## J. 河川プールの砂利掃除ボランティアと遊び



### キーワード

- ・ ご協力: 津和野町名賀(なよし)地区の方々
- ・ 津和野町名賀にある河川プールの砂利などを取り除き、安全に利用できるようにするボランティア
- ・ 終わった後は水遊びも

# ブリコラージュジュゼミ ラインナップ 第1学年 体験③

A. 哲学対話



B. 将棋入門



C. バックパッカー入門



D. 冬虫夏草の世界



E. ガーデニングボランティア



F. 竹細工体験



G. 牛に会いに行こう



H. マスカット大福づくり



# ブリコラージュゼミ ラインナップ 第1学年 体験④

## A. ドローン×プログラミング

講師: 原田久美子先生

場所: 学校内

内容: 先生は、慶應大学の研究者です。ドローンがどんな風に社会の課題解決に繋がるかを考え、プログラミングを組み込み、ドローンの操縦も体験します。



## B. 煎茶道体験

講師: 椿治隆先生

場所: 講師ご自宅

内容: 椿さんのお宅は、江戸時代から続く、分銅を扱う商家です。国指定の文化財でもある坪庭の前で、津和野で江戸時代から親しまれてきた煎茶道の世界を体験させていただきます。



## C. 伝える人になろう【難民編】

調整: 高須知穂先生

場所: HAN-KOH

内容: 難民って誰のこと?どんな人?トルコに住むシリア難民の方と実際にオンラインで話してみませんか。映画やワークショップ、対話を通じて「難民」について知る講座です。



## D. ツヅラ(ツル科の植物)でカゴ編み

講師: 三浦ちづる先生

場所: 校内

内容: 三浦先生は、ツヅラ(ツル科の植物)細工の第一人者です。多くの受賞歴や三越などでの個展開催経験を持たれる先生からカゴ編みを学びます。



## E. そば打ち体験

講師: 青木登志男先生

場所: 校内

内容: 駅前に「ちしゃの木」というお蕎麦屋さんを営まれる青木さん。津和野の水や材料、無添加を探究し、全国ネットでも取り上げられる究極の蕎麦を求めていらっしゃいます。



## F. 鋳物づくり体験

講師: 永戸正規先生

場所: 校内

内容: 高水準の鋳造技術を基盤に自動車部品などを製造している会社です(吉賀町)。コンロで、250度という高温状態を作り、液体化した錫を型に入れる鋳物作りを体験します。



## G. マスカット大福をつくろう

講師: 中島道子先生

場所: 講師のご自宅

内容: 津和野の地元のご家庭にお招きいただき、旬の津和野の食材を使った手作りスイーツを教えてくださいます。学年全員分を作って持って帰ります(個人分も同量)。



## H. 生活の知恵に触れよう

講師: 依千恵子先生

場所: 講師ご自宅

内容: 江戸時代からの商家を、センスよくインテリアデザインしていらっしゃる講師のご自宅で、美味しい紅茶のいれ方やブルーベリージャムづくりを体験します。



## I. ひみつの小学校

講師: 大畑元矢先生

場所: 校内

内容: 本物の小学校の先生にお越しいただき、知っているようで知らない小学校のお仕事について全て教えてくださいます。小学二年生の授業の模擬体験もできます。



# 2年生のプロジェクト型授業の流れ

Process of project development

## 教員側の動き

生徒の興味関心に関するアンケートを繰り返し、個々の意向を反映してPJ設定。

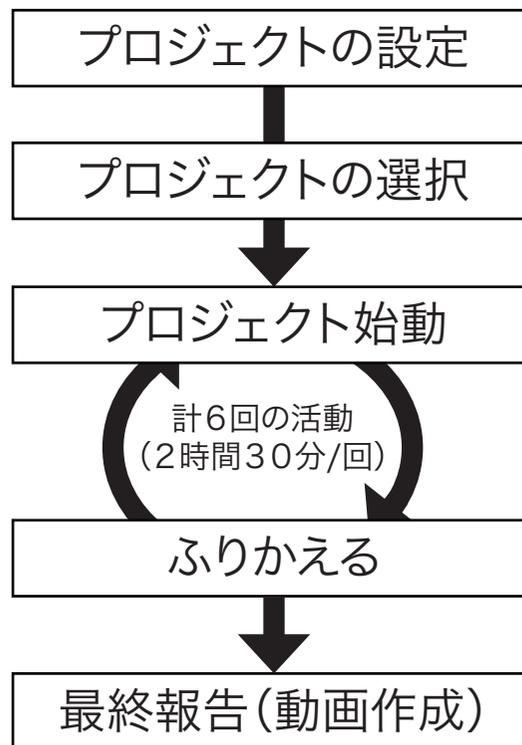
個々の生徒の希望を最大限尊重してプロジェクトを決定。

伴走者として、教員、コーディネーター、地域の大人がプロジェクトに関与する。

ふりかえりジャーナルを元に、毎回の進捗、モチベーションなどを把握。

最終ふりかえり作成を活用しながら、生徒の学びの深化を促す。

## 流れ



## 高校生側の動き

アンケートへの回答や教員、同級生との協議を通して、意向を伝える。

自身がもっとも当事者意識を持てる、やりがいを感じられるPJを選択。

伴走者の協力、アドバイスを得ながらも、主体的にプロジェクトをデザイン、推進する。

毎回の活動の最後にふりかえりジャーナルを記入する。

最終報告動画の作成を通し、半年間の活動をふりかえる。

# 多様なプロジェクト設定

Diverse project development process

## 多様なプロジェクトのかたち

**マイプロ型:** 進行中のマイプロを授業時間も活用して推進

→ アスギミック、源氏巻マップ

**チームプロジェクト型/制作型:** ある程度明確に設定されたゴール(制作物)を見据えて活動

→THA(多胡ハウスアネックス)、動画作成、DIY、神楽面作成、三松堂商品PRポスター作成、カフェPRポスター作成

**アクションリサーチ型:** 研究と実践を交互に重ね、対象への理解を深めたり、実践による環境の変容を目指して活動

→中学校教育研究、看護キャリア研究、SDGs(LGBT研究)、寮環境改善

**オムニバス型:** 毎回異なったテーマで活動を展開し、経験を広げ、深める

→ボランティア、津和野の食

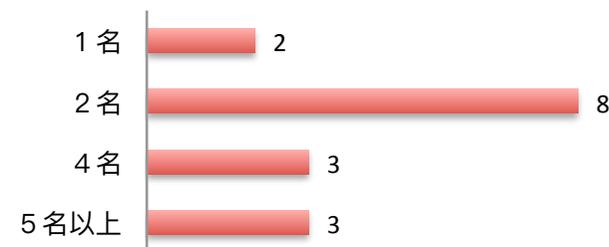
**知識技能習得型:** 知識、技能の習得を企図し、講師に師事する

→韓国語、津和野踊り

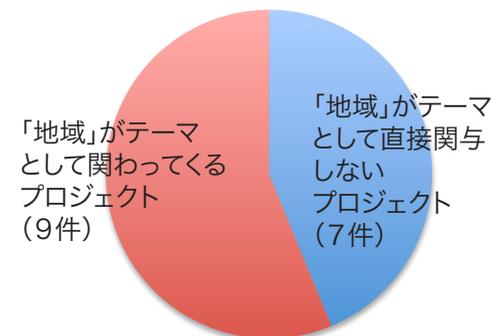
## 多様な形態

多様なプロジェクトあたりの人数

■ プロジェクト数



地域系プロジェクトの割合



## 2学年探究プロジェクトについて

### 実施の背景

令和元年度は、生徒による高校内での主体的なプロジェクトが増えてきたこと、2年次には一つのことじにじっくり取り組んでみたいという要望が生徒からあったこと、教員からSSH/SGH認定校における研究のような機会を一部の生徒に確保したいという意見を受け、2年次はブリコラージュゼミの代わりに探究プロジェクトを設定した。

### 実感できた変容

- ・ 個別最適化したプロジェクト設定(生徒の興味関心を元に開設)を行うことで、生徒の主体性を引き出すことができたといえる。
- ・ 一部の生徒の課外の動きに止まっていた探究的な活動(マイプロジェクト)を、授業内で全ての生徒が体験することができるようになり、「プロジェクト」が共通言語として定着した。

## 津和野の食プロジェクト

チーム人数: 8名

内容: コミュニティキッチンSome Moreを主催する國方講師の下で、津和野でとれた食材を美味しく食べる方法を探求した。



## 韓国語プロジェクト

チーム人数: 3名

内容: 韓国のポップカルチャーに興味のある生徒が、講師の高須先生の指導の下、半年間韓国語の初歩を習ったり、クッキング、スキットコンテスト応募に挑戦した。



## 動画作成プロジェクト

チーム人数: 2名

内容: 講師の高田先生の指導の下、津和野の町や自然を題材に、フィールドワークをしながら取材し、動画の編集までを体験した。



## THAプロジェクト

チーム人数: 6名

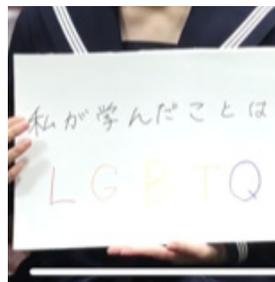
内容: 津和野スクール(建築や都市環境の専門家)と共に、中心部の空き店舗(筆頭家老多胡家所有)の活用方法を検討。大画面ゲーム空間など、憩いの場作りを実現(伴走は玉木先生)。



## LGBT研究プロジェクト

チーム人数: 1名

内容: 多様な性的志向について関心を持った生徒が、SDGsの観点からの研究や、当事者の方へのインタビュー、啓発ポスターの作成などを通して理解を深めた(伴走は田中みゆき先生)。



## 中学校教育研究プロジェクト

チーム人数: 2名

内容: 中学校体育教員を目指す生徒が、津和野中学校の体育教員の協力の下、体育の授業の見学および授業補助を体験。中学校キャリアの研究も行った。



## DIYプロジェクト

チーム人数: 2名

内容: ホームセンターで木材を買い、教員所有の日曜大工の道具を使って、棚や帽子立てなど、小さな家具を設計、作成した。



## 源氏巻マッププロジェクト

チーム人数：2人  
内容：津和野の名物である和菓子「源氏巻」を作る10件の菓匠を巡り、各店のこだわりや位置をマップにまとめた。



## 神楽面作成プロジェクト

チーム人数：2人  
内容：神楽の演者である生徒が、講師の田中とよし先生の指導の下、半年間かけて、般若の神楽面を作成。



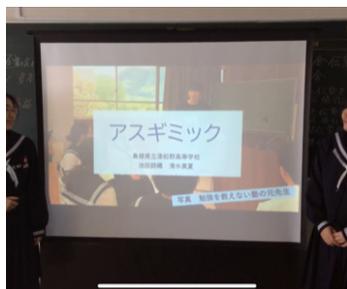
## ボランティアプロジェクト

チーム人数：8人  
内容：河川プールの掃除、空き家の片付け、公民館の窓ガラス拭き、空き店舗の壁塗り、池さらいなど、町内で様々なボランティアに出向いた。



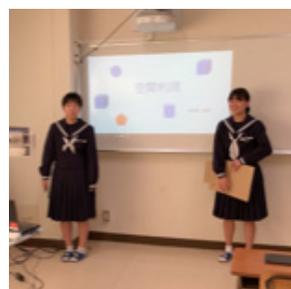
## アスギミック

チーム人数：2名  
内容：進路を決める上での情報が絶対的に少ないと感じ、津和野に訪訪する多様なキャリアを持つ方々をゲストに、講演会を連続開催。



## 寮環境改善プロジェクト

チーム人数：2人  
内容：寮に住む生徒が、寮の生活環境改善に着手。水回りなど、特に課題だと感じる場所の清掃のほか、学校事務長の協力の下、土木事務所への提案などを行った。



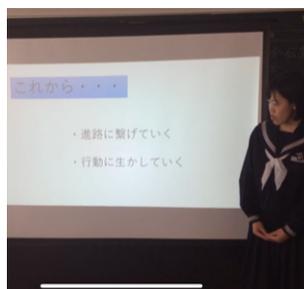
## 猫カフェPRプロジェクト

チーム人数：2人  
内容：学校にほど近い町田地区にできた、猫に触れられる「カフェダンボール」の存在をPRするポスターを、お店のニーズや特徴を元に作成した。



## 看護キャリア研究プロジェクト

チーム人数：4名  
内容：看護のキャリアに興味を持つ生徒が、町内医療機関の訪問看護に同行させていただいた他、看護の多様なキャリアに関するインタビューや調査を展開した。



## 三松堂PRプロジェクト

チーム人数：4名  
内容：学校間近にある和菓子店、三松堂が販売するジェラートは、平日の夕方から学割が適用される。講師の舟山先生の協力の下、のポスター作成など、集客に取り組んだ。



## 津和野踊りプロジェクト

チーム人数：1名  
内容：津和野町に伝わる盆踊り「津和野おどり」を、講師の安達先生のご指導の下、半年かけて覚えた。



# ツコウのリフレクション

Our approaches for deepening learning experiences

## 概要

昨年度教員が作成した体験ふりかえりジャーナリングのためのワークシートを踏襲して年度当初から活用しているため、計画的に蓄積し、年度末のまとめのふりかえりを効果的に行うことができた。

1学年では、それぞれの生徒の特性や成長の過程をもっとも把握している担任教員がふりかえり授業の設計を担当した。思考を整理するためのマインドマップの導入、一対一で大人に話しながら自己理解を深めていくトークフォークダンス形式、ふりかえりの問いまで自分で考えフレームを設計するアプローチなど、それぞれが創意工夫を凝らしたふりかえり授業を実践し、予想以上に生徒は主体的に取り組み、深い内省につながった。

2学年では、生徒が自分のペースでプロジェクトをまとめられるよう、プロジェクトチーム毎に数分間の動画を作成した。パワーポイントでまとめるチーム、スケッチブックで行うチーム、模造紙やホワイトボードでまとめるチームなど、各プロジェクトが、自分たちが最も伝えたいことは何かを意識して作成できた。

## 今年実践・開発・確立されたリフレクションのアプローチ

### ✔ マインドマップ

令和元年度の1学年では、マインドマップによるふりかえりが意識的に実践された。生徒自身、自分の思考を整理しながら学びを深めることができたが、それに加え、周りの大人も生徒の思考の過程を把握できるので、的確なアドバイスやふりかえり伴走を行うことができた。

### ✔ ふりかえりのふりかえり

ふりかえり方は、生徒の個々の状況や特性によって、戦略的に変容させるべきである。また、生徒もその手法の吟味に参画するべきである。令和元年度の1学年では、個々が、自分のふりかえりのアプローチをふりかえる、というワークが実践され、生徒の視座を高めるのに役立った。

### ✔ DIYリフレクション

令和元年度の1学年では、ふりかえりの問いのすべてを大人から与えるのではなく、自分でふりかえりの問いを決め、その問いに従って進めていく実践がなされた。実際、生徒は、自分の学びを深めるための問いをふんだんに出し、自分でレイアウトをデザインして、最終ふりかえりを完成させた。

### ✔ 動画作成

ふりかえりのアウトプットは、ワンパターンではなく、目的や状況、個々の特性に合わせて設定すべきである。令和元年度の2学年では、動画によるドキュメンテーション(記録/表現)が実践された。生徒が親しみやすい表現媒体であるだけでなく、多様なアウトプットの形態を包含する動画作成を、最終アウトプットとして今後も検討したい。

### ✔ トークフォークダンスの活用

「人に話すこと」は、シンプルでありながら、自分の考えを整理する効果的な方法である。過去二年間、ツコウではトークフォークダンスを活用したふりかえりが実践されてきた。自己表現スキルを身につけるための良質の「足場」として、トークフォークダンスの実践を進めていきたい。

### ✔ ワークシート

一方的で改良のなされないワークシートには意義がないが、反復する中で内省するための視座を獲得するために、毎回同じフォームを使うことには効果があるのではないだろうか。客観的視座、感情的視座、解釈的視座、そして今後の自己の変容を意識できるORIDのフレームワークを基盤に、平易な言葉で生徒に問うワークシートが、2年前より教員によって開発され、継続的に使用されている。

# 基本のリフレクションワークシート

Our basic reflection format

## 津和野高校の基本的なふりかえりの型

**概要:** 津和野高校では、ORID(客観的視座、感情的視座、解釈的視座、そして今後の自己の変容)のフレームワークを基盤に、平易な言葉で生徒に問うワークシートが、2年前より教員によって開発され、継続的に使用されている。

### Objective reflection

→「研修内容」という項目で、事実ベースのふりかえり、何をしたかを意識的に整理する。

### Reactive reflection

→「感じたこと」「気づいたこと」という平易な言葉で、活動中の出来事にどう反応したのかを整理する。

### Interpretive reflection

→「研修全体を通しての感想」という項目で、事実からどう解釈したのかを意識的に表現する。

### Decision reflection

→「今後の自分に繋げたいこと」という項目で、活動を受けて、どう行動に接続するかが言語化される。

### 課題設定(選択の理由、仮説立案)

→「研修前の印象」を意識することで、課題設定の視点をふりかえりに盛り込んでいる。

ゼミ名 (伝える人になろう (難民編))	2019/10/8
☆研修前に考えていたこと	
・難民って暗いイメージかな、あまりしれなくてかわいそうかなって思ってた。 ・となくいい人だった。 難民か。	
◇研修内容	
① 難民とは。(たけさんのお話) ② Skype Session with Ghenwah (ジエワさんとのお話) ③ たけさんの話 ④ 講義前の映画「アレンの最後・男でろ」	
□研修内容について感じたこと、気付いたこと	
内容番号	感じたこと、気付いたこと
①	難民と移民の違いを知った。前が「危険な」から避難して来た人を難民という。今「難民」は「この世界に何万人といることになった」。
②	私はこの講義前、難民は、暗くて、希望がなくて、あまりしれなくて、怖いというイメージを勝手に持っていた。たけさんのお話を聞いて、自分のイメージと見比べると、全然違うことに気づいた。
③	日本に難民を受け入れるための疑問が生まれた。講義を受けてから
④	私は、日本と難民について、考え直すことができた。今、はじめは、暗くて怖いイメージで、今では、考え直して、難民を受け入れることが、世界に貢献できることだと感じた。
⑤	画面に映し出されている映像が、涙も出ないほど、リアルで、非現実的
○研修全体を通しての感想	
難民って暗いイメージかな、と、中2の難民受け入れに決めた日本への対応が、真に怖かった。難民の受け入れで、日本にある「Vet. 7000人」は何か、もう少し詳しく調べてみたいと思った。Ghenwahさんの話は、英語で、やはり英語、でも、聞いて、今、初めて日本と、内戦が起きているという、住んでいる人と同じ言語を話して、意見を交換し合えるのは、通訳して、お互いに、自分自身、耳を閉じて、理解して、世界の人と話してみたいなって思った。	
☆今後の自分に繋げたいこと	
・世界には、まだ、たけさんの難民の人がいることを、頭においておくこと。	